

特定非営利活動法人
横浜にLRTを走らせる会
〒231-0032
横浜市中区不老町3-13-3
後藤ビル206
TEL:09038016142
FAX:045-316-2368
yokohama-lrt@nifty.com



横浜にLRTを走らせる会 NEWS



http://lrt.cocolog-nifty.com/yokohama/

2010 新春LRTフォーラムを開催しました！ “横浜のまちづくりとLRTの可能性”

日時：1月23日(土) 午後1:30~4:30
会場：横浜市技能文化会館 802大研修室

第1部 基調報告

- ①「関内・関外地区活性化推進計画検討会」から
池田 翼氏(関内を愛する会・理事長)
 - ②「横浜駅大改造 計画づくり委員会」から
鈴木伸哉氏(横浜市都市整備局・横浜駅周辺等担当理事)
 - ③「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」から
鈴木伸治氏(大学まちづくりコンソーシアム横浜・横浜市立大学准教授)
- ・「全国大会 報告 DVD上映」
第4回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 東京



第2部 パネルディスカッション

パネリスト：野口和雄氏(都市プランナー)
池田 翼氏 鈴木伸哉氏 鈴木伸治氏
コメンテーター：松本 努氏(神奈川新聞社元論説委員)
コーディネーター：清水康二氏(横浜にLRTを走らせる会・副理事長)

1月23日(土)午後、「横浜にLRTを走らせる会」と「横浜の公共交通をめざす会」の主催で「2010新春LRTフォーラム“横浜のまちづくりとLRTの可能性”」が横浜市の技能文化会館で開催され、79名の参加者がありました。第1部の基調報告では現在横浜市で検討されている3つのまちづくり計画についての報告があり、①「関内・関外地区活性化推進計画」の検討会の委員である「関内を愛する会」の池田理事長が、かつての賑わいの創出のために、市庁舎移転問題も含めて官民が協働して、それぞれの商店街の特徴を生かしながら、利害を超えて全体の発展をめざすことが大事だと調整されました。②「横浜駅大改造計画」の計画づくり委員会の事務局長である横浜市都市整備局の鈴木理事は、乗客数が1日200万人を超える横浜駅の大改造計画は、行政だけでなく地元協議会、鉄道会社、有識者が一体となって、横浜駅周辺のまちが抱える課題を7つのまちづくり戦略の元に計画実現に取り組むと報告しました。③「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」の「大学まちづくりコンソーシアム横浜」という立場から、横浜市立大学の鈴木准教授は、「インナーハーバー(内港)＝横浜ベイブリッジの内側でJR系東北線・根岸線の海側の地域」の50年後の都市づくりのビジョン(構想)はどうあるべきかを提言しました。この3つの都市計画は、いずれも横浜市が中心になって取り組んでいるまちづくり計画です。1965年以

来進めて来た飛鳥田市政時代の六大事業がほぼ完成した後の、今後の50年を見据えた新しい横浜の中心部を形づくる計画であり、行政だけでなく市民がこうしたフォーラムを開き、開かれた議論をする意義が大きいのではないかと思います。委員会は公開されていて市民は傍聴出来るのですが、委員会によっては傍聴者は多いとは言えず、今後、開かれる関連したシンポジウムなどに参加することや計画に対しての市民意見を進んで提出することが市民に求められているのではないのでしょうか。

第2部のパネルディスカッションでは、報告した3人に加えて、パネリストとして都市プランナーの野口和雄氏、コメンテーターとして神奈川新聞社の元論説委員の松本努氏が加わり、前半は3つの計画に対する議論を、後半はそこにLRTの可能性はあるのか、という議論が行なわれました。

野口氏は辛口の意見で知られていますが、「横浜は東京という巨大都市の隣に位置して、人口減少、経済停滞する中では、あれもこれもは難しいのではないかと。格差が生じることを覚悟した上で、路面電車(LRT)の風景を創出する、停留所毎に魅力ある施設を作るなどをすれば成功する可能性はあるのではないか」というコメントをしました。

後半の議論に先立ち、コーディネーターである「横浜にLRTを走らせる会」の清水副理事長が、パワーポイ

(次ページに続く)

●富山市内電車環状線 12月23日開通!

富山では、2006年4月に開通した富山ライトレールに続いて、市内電車の環状運転が昨年12月23日に開通しました。既設の市内線丸の内と西町間に単線軌道0.9kmと電停3箇所を新設するとともに低床車3編成の購入を富山市が、運行は富山地方鉄道が担当する、軌道では初めての上下分離方式で建設されました。中心市街地・総曲輪と富山駅間の回遊性を高めるための環状運転ルートは、一周すると3.4kmで20分かかります。途中の大手丸はイベント開催時には車の通行を禁止、23日の開通記念行事では多くの市民が集まりました。コミバス的一方向運転は日本のトラムでは珍しく、また運行はまちの活性化が主目的のため、朝は20分、昼間と夕刻は10分間隔で、開業後の利用者数は今のところ順調です。車社会の地方都市で、30億円の公共投資がまちの活性化に役立つことを実証してほしいものです。(文責・大野真一)



●「横浜で人と環境にやさしい交通をめざす集い」開催!

12月6日、横浜市開港記念会館で「横浜で人と環境にやさしい交通をめざす集い」が開かれました。この集いは「走らせる会」や「めざす会」それに「カーフリーデー実行委員会」が中心になって、横浜で活動する交通や環境、福祉などで活動する団体に呼びかけて、ネットワークをさらに発展させるために、横浜のさまざまな活動を共有し、今後、横浜で人と環境にやさしい交通の実現をめざす活動を大きく前進するために、どのようにしたらよいかについて議論する目的で開催されました。それぞれの活動報告や横浜市都市整備局都市交通課の黒水公博課長による市の交通政策の取り組み状況などの報告の

●横浜カーフリーデー2009&モビリティウィークに参加!

9月22日、横浜公園・日本大通りで横浜カーフリーデー2009&モビリティウィークが開催されました。本来は都市の中心部において1週間クルマの流入を抑え、公共交通・自転車・徒歩を優先し、騒音や大気汚染がなく安全・安心に街に出かけ、街のにぎわいを取り戻し、街の魅力を再発見しようという取り組みです。クルマに依存しない都市のあり方を体験してもらう社会実験として、世界で2000以上もの都市が実施しています。横浜にLRTを走らせる会ではパネル展示とLRTぬり絵コンテストを行ない、ぬり絵コンテストでは約120名もの子ども達が参加しました。その後、12月23日に横浜市電保存館において入選者を招いて表彰式を行ったところ、11人の入賞の子ども達とその家族など30人を超える方々が参加してくれたことは大変嬉しいことでした。(文責・大内えりか)

協力していただけますか。横浜にLRTを走らせるためにあなたに出来ることは? 各チームの活動は「走らせる会」と「横浜の公共交通活性化をめざす会」が協同して行っています。広報チームは毎月第2火曜日 企画チームは毎月第4水曜日 県民センター12Fで19時から開催

●事務局

- 渉外関係
 - 横浜市役所担当部局との意見交換会
 - 横浜カーフリーデーへの参加
 - 第5回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会in岡山(予定)への参加・協力
- 組織関係
 - 会の運営
 - 会員の学習 情報提供 最新情報 最新技術 関連法規など 収集
 - 会員拡大

●フォーラム広報チーム

- フォーラムによる啓発
 - 夏と冬の2回LRT大フォーラムを開催
 - 商工会、まちづくり団体、企業、行政などへのPR活動
 - 計画路線沿線の商店街、自治会・町内会などへの出前説明会の実施
 - 定期刊行物による広報
 - ・ブログの更新
 - ・年2回のニュース発行

●企画チーム

- 計画路線の検討
- LRT問答集(Q&A集)など資料・宣伝ツールの作成
- アンケートのまとめや実施
- 事業運営形態や採算性の検討
- 関連研究や知識の提供・共有化

●絵本プロジェクトチーム

- 日本初のLRTの絵本の販売「子ねことふしぎな電車」一冊千円お問い合わせ、ご注文は、lrt_ehon@yahoo.co.jp またはFax045-250-5632

編集後記

3面に報告しましたように、昨年8月の市長選挙の際に、3人の候補者に公開質問状を送り、市長に当選した林市長からは「LRTを推進する」という回答を頂きました。私たちは「公約」と受け取りましたが、市長になってからの回答との落差には愕然としました。とはいえ、市長の回答にある「まずは、担当部署との話し合いを通じて、課題や可能性等について共有していただきたい」とあるのは尤もなことでもありますので、今後、横浜市の担当部署との話し合いを申し入れたいと考えています。当会の田村明会長が1月25日に83歳で逝去されました。追悼文と07年7月の創刊号で寄稿して頂いた「横浜のまちづくり」をもう一度掲載し、かつて雑誌などに掲載されたものを添付しました。田村会長の横浜に対する思いを改めて感じ、その業績を称えとともに、心からご冥福をお祈りいたします。